

令和7年度 第2回長野市連携中枢都市圏ビジョン懇談会 要旨

日 時 令和7年10月21日（火）15:00～16:30

場 所 長野市役所第一庁舎5階 庁議室

出席者 別紙名簿のとおり

資料1 長野地域連携中枢都市圏 達成状況報告書 2024（令和6）年度

資料2-1 第三期長野地域スクラムビジョン（素々案）

資料2-2 基本目標の設定について

資料2-3 第三期長野地域連携中枢都市圏ビジョン別冊（素々案）

資料2-4 第二期・第三期 連携事業比較表

資料2-5 新規連携事業の概要

1 開会（臼井企画政策部長）

2 あいさつ（西澤副市長）

3 懇談

(1) 令和6年度 第二期長野地域スクラムビジョンの達成状況

○事務局

資料1について説明

(2) 次期長野地域スクラムビジョンの策定について

○事務局

資料2-1～2-5について説明

(3) 意見交換

○委員

第三期スクラムビジョンの基本目標として設定している、観光消費額、J R長野駅乗車数、圏域内インターチェンジ乗降車数の3項目について、観光が非常に大事であると考えているため項目自体は良いと考えている。しかし、目標値については、J R長野駅乗車数と圏域インターチェンジ乗降車数が基準値より上昇しているのに対し、観光消費額については基準となる期間の平均値を設定しており、観光消費額についても目標値を上振れさせてもよいのではないかと。

事業のK P Iについて、アンケートによる研修の満足度としているものがいくつかあるが、悪い回答がしにくく満足度が高くなる傾向があるため、事業の実効性を高めるために、どういったK P Iが良いのかという発想がもう少し大事なのではないかと感じる。参考指標についても同様に、実効性を高めるためにどのように設定するかの発想が非常に重要なため検討してもらいたい。

○事務局

K P I等の設定については苦慮しているところであるが、委員ご指摘のとおり、有効

な指標については引き続き検討していきたい。

○委員

結婚支援事業については、商工会議所も10年実施しており、大変難しい事業ではあるが、行政でも一生懸命実施してもらえるとありがたい。また、女性活躍についても進めてもらいたい。

民間が中心で実施する事業、行政が中心で実施する事業、または行政と民間が連携して実施する事業、それぞれあると思うが、行動していくことが大事ではないかと考えており、事業については実施したままではなく、成果指標を評価していくことが大事ではないかと感じている。

○委員

10月にイオンモールがオープンし、今のところ心配された交通渋滞もほとんど無く、群馬や山梨、上越、長岡、県内では上田方面、諏訪、松本のナンバーの車が多く入ってきており、中には岐阜や静岡のナンバーも見られる。流入人口や、関係人口、有効求人倍率について、須坂市は比較的高い水準で推移しており、オープン時は人手が不足、県外から応援が来ており、地元の経済活性化にはかなり効果があったのではないかと感じている。年間800万人の集客が見込まれるため、ビジョンの基本目標の底上げを期待している。

また、イオンモール須坂は地域との連携を大事にしており、イオンモールを活用しながら、地元の観光や地場産品のPRができれば良いのではないかと。

○委員

坂城町では3年に1度開催する坂城ものづくり展を、今月初めに開催し、製造業の若手の社長達を中心となり、オープンファクトリーを開いた。町内の小中学生が18の事業所を回り、各会社が製造しているものを見てもらった。こういった、事業所とのタイアップはこれから大切になるのではないかと感じている。子どもたちが地元に戻ってくれば人口増にもつながるため、このような対策等も検討してもらいたい。

○委員

農業分野は担い手不足に悩まされており、中山間地の人口減少やコミュニティがうまく回らない部分が大きく出てきている。1日農業バイトアプリの管理運営に関わっており、JA関係だけでも年間で延べ七千人弱の方が農業を体験している実態もあるため、こういったものを活用しながら、PR事業の中で圏域内の特色ある農業を紹介できれば、興味をもって移住定住につながる可能性があるのではないかと考えている。

○委員

インバウンドが非常に隆盛なため、長野市内で冬のスケート合宿等の宿泊先が無くなってきており、昨年度は須坂市に宿泊いただいた。そういった形で、エリア全体で宿泊を受け入れて取りこぼしが無いようにしていきたい。また、これからホテルがいろいろな場所に建つが、ホテルを支える清掃員の方たちの人手も不足しており、取り合いが想定されるため、人手不足の中で整理をしていかないと受入が進まないと認識している。

地域振興局と長野市農業政策課と協力し、長野市のホテルでリンゴの提供を行って

おり、非常に好評である。各地域でもリンゴが特産物になってきていることもあり、取組を広げていきたい。

○委員

学生が事業の後押しや、事業に興味をもって今後の連携に協力できる可能性もあるため、連携事業のPRは大学に対しても重点的に実施してもらいたい。

次期ビジョンでは、新しく地域医療や福祉の区分においてKPIをアンケートでとるとのことだが、具体的にどのような取り方をするのか。

○事務局

KPIについて基本的には定期的に継続して公表されるデータ等を選んでいく。アンケートはそれぞれの市町村で毎年実施しているアンケートに設問を加えるといった方法を検討している。

○委員

アンケートであれば、事業の認知度や、そもそも連携中枢都市圏で連携している事業についてPRも兼ねて聞くということも手段の一つとして考えられるのではないかと。

また、実効性のある事業推進のため、実際の事業の具体的な回し方や、課題の整理や解決方法について、共有することも重要ではないかと考えている。

○委員

具体的な取組として、地域資源を活かしながらスポーツを軸とした地域づくりに取り組む旨が記載されているが、どのようなことなのか。

連携事業と県の取組に関連しているものもあると思われるが、県の機関との連携も考えられるのではないかと。

図書館の機能には貸出以外にも、日常生活で調べたいものがあつた際に窓口となるリファレンスという重要な機能があり、その図書館で解決できなかったことを、近隣の図書館の方へ投げかけるような仕組みがあるようなので、そういった連携についても進めてもらいたい。

青少年対策事業が廃止になるとのことだが、須坂市スポーツ協会は須坂の勤労青少年ホームの指定管理をしており、勤労青少年という概念が無くなりつつある中で、施設の廃止が取りざたされている。今働いている若い勤労者の方の事業が無くなってしまふのは寂しく感じる。

○事務局

スポーツを軸とした地域づくりについては、ホームタウン活性化事業や、スポーツ拠点づくり推進事業、アウェイツーリズム活用事業といった、単なるスポーツだけではなくいろんな分野に広がるような仕掛けを、連携事業の中で見つけていきたいというもの。

青少年対策事業について、今回、現行計画で連携実績がなかった事業は廃止とするものの、内容を検証し、必要な連携で効果があると考えられる事業があれば、改めて検討するように考えている。

○委員

青少年対策事業は、第二期ビジョンが始まった後に、新型コロナウイルス感染症の流行で全く実施できていない時期もあり、事業として難しい状況に差し掛かってしまっ

た。次回につきましては廃止されるということで、これまでの長いお付き合いに感謝を申し上げます。

○委員

子育て支援とか、教育、福祉の分野の仕事をしており、多胎児の相談もあるが、個別の相談に乗ることはできても、施設の利用や母親同士の連携の機会ができなかった。今回、新たに多胎児育児支援相談事業が連携事業として立ち上がったことは大変ありがたい。

スクールカウンセラー等の共同活用事業がCOCOLOプラン推進共同研修事業に名称が変更となるが、義務教育中の不登校の人数は増加している中で、そういった子の居場所が坂城町にはまだないため、期待している。

障害のある子へのサービスについて、放課後デイサービスや保育所等の訪問等、事業者が実施しており、上田市や千曲市、長野市のサービスを利用しているため、連携事業に組み込まれるとよいのではないかと感じている。

○委員

再生可能エネルギーをさらに活用していくことが大事であると考えており、長野地域連携中枢都市圏では2050年ゼロカーボン宣言をしているが、もう一度ここで連携中枢都市圏として、市民の皆さん住民の皆さんにメッセージとして送る必要があるのではないかなど考えている。KPIについても、バイオマスエネルギーの利用状況とし、公共施設へペレットボイラーや薪ボイラーを導入してみてもどうか。

最近善光寺のような観光地にも熊が出ており、各連携中枢都市圏一体となって、人と山との間の森林整備を進め、見通しをよくすることで、多少は効果があるのではないかと感じている。

長野市のフォレストワーカー育成支援事業により、思い切った採用ができ、若者の人口増に貢献できるこの事業というのは本当にありがたいと感じている。

○西澤座長

本日いただいた意見を次期ビジョンの策定や連携中枢都市圏の更なる発展に活かしていきたい。

4 閉会

以上